

埼玉県立

# 小児医療センター だより

## ●埼玉県立小児医療センター

〒339-8551 さいたま市岩槻区馬込2100

Tel ▶ 048-758-1811 Fax ▶ 048-758-1818 E-mail ▶ n581811@pref.saitama.lg.jp

URL ▶ <http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html>

看護部長あいさつ

## 看護部のご紹介

看護部長 黒田京子



今年4月より小児医療センター看護部長に就任しました黒田です。どうぞよろしくお願ひいたします。

小児医療センター看護部は、病院の理念「For the future, for the Children～こどもたちの未来は私たちの未来～」のもと、『子どもたちの未来のために、子どもたちの最善を目指した看護を提供する』を理念としております。平成26年4月の常勤看護師の定数は431人となり、非常勤職員・看護補助者等看護職員を含めると520人余りが看護部職員として勤務しています。

小児医療センターは、平成28年度さいたま新都心への移転を予定しており、看護部も日常業務の傍ら移転準備をすすめています。新病院では、県内唯一の小児総合医療施設として、周産期医療の整備、小児救命救急医療の充実、最新の医療に対応できる医療人材育成の拠点、快適な療養環境の提供を目指しています。そのため看護部が取り組むべきことは、人材の確保と定着、そして人材の育成と考えています。

人材の確保・定着に向けては、働きやすい職場環境、仕事を通じやりがい感や達成感等自己効力感が得られる成長できる環境、職員の満足度の高い職場を作っていくことを心がけています。毎年看護職員に向け満足度調査を実施しながら、ワークライフバランスを考慮し、育児短時間制度などの多様性のある勤務の推進、夜勤体制の見直しなどに取り組んでいるところです。

人材育成では、教育体制にクリニカルラダー方式を取り入れ、小児専門の教育プログラムを設定し学習を支援しています。新病院に向けての人材育成としては、専門・認定看護師育成（現在専門看護師2名、認定看護師9分野14名）、他県の小児医療施設への研修派遣、また周産期看護研修、クリティカルケア研修、小児がん看護専門研修、専門・認定医看護師による看護フォーラムなどの研修会の開催を推進しています。研修会では地域の方々との連携を図るために、小児医療施設、訪問看護ステーション、特別支援学校からも参加いただき学びを共有できるようにしています。これからますます、地域との連携が重要となってきます。診療だけでなく、看護と看護の連携が教育の上でも取れるようにしていきたいと思います。

これからも、子どもたちのために、そして皆さんの期待に応えられる看護部でありたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 埼玉県立小児医療センターだより 第5号 ご案内

- |                                 |                                   |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| ○ 看護部長あいさつ 黒田京子 .....p.1        | ○ お知らせ .....p.6                   |
| ○ 部門紹介 腎臓科、脳神経外科.....p.2~3      | ○ はじめて当センターを受診される方へ・アクセス .....p.6 |
| ○ 部門紹介 臨床工学部、看護部 手術室 .....p.4~5 |                                   |

<部門紹介>

# 腎臓科

腎臓科 藤永周一郎  
ふじ なが しゅういちろう

腎臓科では、夜尿症から急性血液浄化療法まで、腎移植以外のすべての小児腎疾患を対象としています。疾患によっては、総合診療科、泌尿器科、血液腫瘍科など他科と協力しながら診療を進めています。具体的には下記の疾患が対象となります。

- 特発性ネフローゼ症候群の診断・治療
- 三歳児検尿、学校検尿などで血尿、蛋白尿を指摘された児の管理
- 急性糸球体腎炎（溶連菌感染症後など）の診断・治療
- 慢性糸球体腎炎（IgA腎症、紫斑病性腎炎など）の診断・治療
- 膠原病（全身性エリテマトーデスなど）の腎合併症の診断・治療
- 急性腎不全（溶血性尿毒症症候群など）に対する急性血液浄化療法
- 慢性腎不全に対する維持透析療法（腹膜透析）
- 尿路感染症の治療・管理
- 先天性腎尿器奇形（水腎症、膀胱尿管逆流症、多囊胞腎など）の診断・管理
- 血液浄化療法（持続的血液濾過透析、エンドトキシン吸着、血漿交換など）を必要とする病態（急性腎傷害、敗血症性ショック、劇症肝炎、先天性代謝性疾患など）の管理・治療
- 夜尿症、昼間尿失禁の診断、治療

上記の中で、腎臓科が主に診させていただいている疾患を紹介します。

## 1. 特発性ネフローゼ症候群

ネフローゼ症候群は、血液中の蛋白が尿中に大量に漏れ、血液中の蛋白が低下する病気です。その結果、顔や全身にむくみが生じることで気がつかれます。小児のネフローゼ症候群は、原因不明の“特発性”が多く、ステロイド治療により尿蛋白が消失(寛解)する割合が高い(90%)ことが特徴です。しかし、寛解しても、約30%はステロイド減量に伴い再発を繰り返すステロイド依存性へ移行しますので、その場合、ステロイドの重大な副作用（低身長、肥満、骨粗鬆症など）に注意する必要があります。当科では、難治性ステロイド依存性の患児においても、なるべく通常の生活が可能になるように免疫抑制剤等(ミコフェノール酸モフェチル、リツキシマブなど)による最新の医療を提供できるよう努力しております。難治性ネフローゼ症候群でお困りの方は、ご相談いただきたいと思います。

## 2. 夜尿症

夜尿症は、尿意で起きることができず、しかも夜寝っている間につくられる尿量と膀胱の大きさとのバランスがとれていないために起こります。原因として、睡眠障害、抗利尿ホルモンの不足、膀胱の筋肉の過活動など多因子が考えられており、単独の治療では効果がなかなかでないため、ドロップアウトしてしまう患者様も少なくありません。重症例において、当科では三者併用療法という複数の治療（夜尿アラームと薬物治療）を組み合わせることで短期間に改善させうることを報告しています。



# 脳神経外科

脳神経外科 栗原淳

脳神経外科では脳や脊髄という神経に発生する様々な病気の手術による治療を行っています。具体的には水頭症や二分脊椎症、頭蓋骨縫合早期癒合症などの中枢神経系奇形や脳腫瘍、脳血管疾患などが診療対象となります。対象疾患が多岐にわたるため診療にあたっては関係する複数の診療科との連携を重視し、最先端の診療を行うよう心がけています。

以下に当診療科での各疾患に対する診療の特徴を示します。

1. 水頭症の治療では、従来から行われているシャント手術に加えて、近年進歩のめざましい神経内視鏡手術を積極的に行ってます。水頭症の治療では年齢や原因、病態に応じた適切なシャントシステムの選択および手術術式の選択により、シャント手術の再手術率は開院当時の約80%から20%に減少しています。
2. 二分脊椎症の治療では、手術のみならず成長発達に応じた運動感覚機能や排泄機能の評価、管理が必要になるため、新生児科や泌尿器科、整形外科、外科等の診療部門のみならず、理学療法士や看護師等複数の部門と連携し診療を行っています。
3. 頭蓋骨縫合早期癒合症の治療では、形成外科と協力し頭蓋の拡大および形態の改善（整容）を目指した手術を行っています。従来の頭蓋顔面形成術に加えて骨延長器を用いた手術を取り入れることにより、再手術率は従来の約50%から5%に改善しています。重症例に対しては総合診療科や耳鼻咽喉科と連携をし、呼吸機能の評価および呼吸循環管理を行っています。
4. 脳腫瘍の診療では、手術のみならず手術後の化学療法（薬の治療）や放射線治療が重要になりますが、当院では2003年以降、血液腫瘍科、放射線科、病理診断科など複数の診療科との合同カンファレンスを積極的に行い、診療連携することで治療成績が向上しています。複雑なホルモンの管理や痙攣コントロール、新生児管理に関しては代謝内分泌科や神経科、未熟児新生児科とも連携し診療を行っています。
5. 脳血管疾患の診療では、2006年以降、複雑な脳血管奇形や脳動脈瘤に対して脳血管内手術を導入しています。

また、当院脳神経外科の特徴として国内では2～3の施設でしか行っていない、痙性麻痺（突っ張ったタイプの麻痺）に対する選択的脊髄後根神経切断術を行っています。選択的脊髄後根神経切断術とは



足の痙性麻痺に対して、手術中に神経を電気刺激することにより異常な神経を選択し切断する手術で、脳性麻痺の痙性麻痺による歩行機能改善を目的に行っています。現在は整形外科医および理学療法士と協力し、麻痺の状態およびリハビリテーションの状況を判断し手術適応を決定しています。

当科は現在4名で診療を行っており、今後も最先端の医療技術を導入しながら良好な治療成績を目指して安全な診療を提供してまいります。

# 臨床工学部

こ やま よし あき  
臨床工学部 古 山 義 明

臨床工学部は小川副病院長を部長とし、臨床工学技士4名が在籍し業務を行っています。

臨床工学技士は、昭和62年に誕生した国家資格です。医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作および保守管理を行う事を業とする医療機器の専門医療職種で、医師をはじめ看護師などと共に医療機器の高度化・複雑化が一層進むなかチーム医療の一員として生命維持をサポートしています。

手術室では先天性心疾患を持つ患児に対して、心臓と肺の代わりをする人工心肺装置を操作しています。当センターでは、学会認定資格の体外循環技術認定士が3名おり安全な人工心肺を施行するように心がけています。また、NICUなどの集中治療室では人工呼吸器や多くの生命維持管理装置、心電図や酸素飽和度をモニターする患者監視装置を使用しています。このような医療機器の管理はメーカー保守だけでなく、院内で臨床工学技士が点検や緊急時の対応を行い適正な管理を行っています。更に、医療機器を安全に使用するために医師や看護師への勉強会も行っています。

近年、医療機器は病院内だけでなく在宅医療にも使用されるようになりました。臨床工学技士は、在宅医療で使われる人工呼吸器、吸引器、吸入器、パルスオキシメーターなどの導入にも積極的に関与しています。在宅人工呼吸療法を導入しご自宅で療養を行っている患者さんは他の類似病院に比べ非常に多く、非侵襲的陽圧換気（NIPPV）を含めると約50名の患者さんがいます。導入時には医師、看護師、MSWなどと連携し人工呼吸器の使用法、回路の組み立て、周辺機器などの管理方法を指導しています。それ以外にも在宅酸素療法、在宅経管栄養療法で使われる医療機器に関しても導入に対する指導を行っております。在宅療法で使われる医療機器に対しての相談や疑問点がある際は、在宅支援相談室に申し出て頂ければ対応させていただきます。



# 看護部 手術室

手術室 田邊尚子

小児医療センターの手術室は5つ部屋（バイオクリーンルーム1室）があり、手術の術式に合わせて使い分けられています。緊急手術にも昼夜問わず対応しています。手術を行う診療科：外科、心臓外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、歯科、血液腫瘍科、循環器科であり、1日に10件～15件の手術を行っています。私たち手術室スタッフは、手術が安全・円滑に進むよう、他職種と協力しながら手術を行っています。

H25年度の年間総手術件数：約2,129件（全身麻酔件数2,230件）

H26年度は、月平均200件の手術が行われています。手術室看護師は24名で、予定手術の他、昼夜を問わず緊急手術に対応しています。

緊張感があり怖いイメージがあると思うかもしれませんが、人気キャラクターの人形や、アニメのDVD、音楽など用意して、子供たちやご家族に少しでも不安を軽減していただけるように工夫しています。また、看護師たちは動物や、花柄など色鮮やかな術衣を着て少しでも安心していただける環境作りをしています。



## 〈術前訪問では心の準備を支援します〉

子供の成長に合わせ紙芝居やマスクを使用し、手術室で何をするか説明します。術前訪問での説明により、子供なりに理解し、自発的に協力していただけます。



手術室には手術室認定看護師がおり、手術室看護師の知識・技術向上のため教育に取り組んでいます。さらには、安全を第一優先として医療安全担当者を中心に、適切な手術器材・器機の管理等を行うことや手術前の準備・確認を行うことで、より安全な手術環境を提供できるよう取り組んでおります。それを実践するために日々スタッフと共に、器械・器材の管理や手術前の準備を行うことで安全な手術を提供しようと努力しています。また、チームワークを大切に、何でも聞きやすい雰囲気作りを行うことで安全な手術につながるよう心がけています。

# お知らせ

## ホームページのリニューアルについて

平成26年12月25日から、新しいホームページがオープンし、アドレスも変更になりました。

(新アドレス)

<http://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html>

主な改定点は、

- ・健康情報や予防接種、新病院の情報など患者さんの関心が高い情報をトップページにバナーを設けてご案内します。
- ・こども病院らしい、全体的に優しい雰囲気のデザインにしました。
- ・「医療関係者の方々へ」のコーナーを設け、地域連携・相談支援センター窓口の紹介や地域の医師や看護師向けのセミナー情報を発信します。

新しいホームページをぜひ御覧ください。



## はじめて当センターを受診される方へ

**当センターは高度、三次医療を担う専門病院のため、紹介制、予約制になっています。**

### 1 受診のための手続きは…

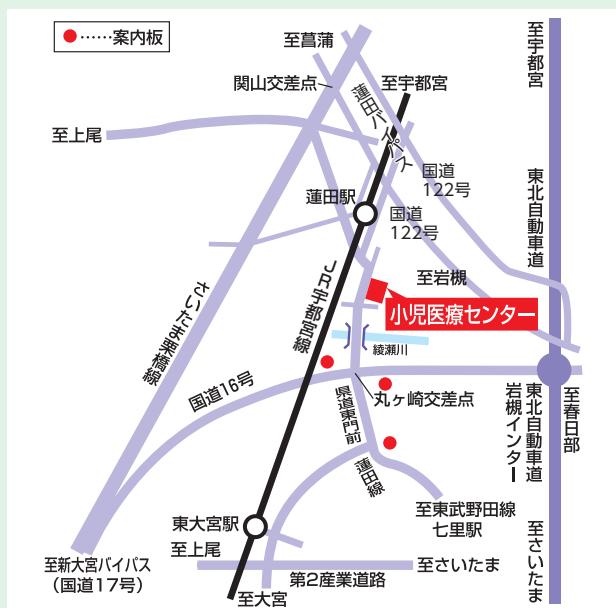
現在のかかりつけ医師に紹介状（診療情報提供書）を書いていただき、☎048-758-1822（一般外来予約専用回線）にお電話下さい。保健発達外来は専用回線 ☎048-758-2165です。

受け付け時間は、平日の 9:00～12:00、13:00～17:00 となります。

なお、緊急を要する際は、紹介元の医師から、当センターの担当医師に直接ご連絡いただくことになります。その際には、☎048-758-1811(代)へお願いします。

### 2 セカンドオピニオン外来について

セカンドオピニオンのご相談も受け付けています。患者ご家族様から直接 ☎048-758-1811(代)へご予約をお願いします。



### アクセスについて

#### ◎ 交通機関 の場合 :

JR蓮田駅東口より国際興業バスにて約10分  
料金170円。  
タクシーでは約5分 料金は800円程度。

#### ◎ 自家用車 の場合 :

東北道岩槻ICから、さいたま市（旧大宮）方面へ国道16号で丸ヶ崎交差点を右折し、約500㍍先右側になります。



埼玉県のマスコット コバトン